



金澤 浩 議員

町民を守る予算配分の優先順位は

答 仲島教育委員会事務局長

国の補助金動向を注視しながら、来年夏のエアコン設置を目指したいと考えている。費用の概算は、業者試算によると約3億円になる。

答 岡本町長

町民を守ることにウエイトを置く考えもあるが、それも含め全体的にどう使うかを考え予算編成をしている。事後的に事務事業評価という形で評価をし、その結果として縮小すべき事業と、廃止すべき事業もあるかもしれないことを整理した上で、次の予算に反映している。今、事務事業評価は内部評価にとどまっているが、今後は、内部評価をした上で第三者外部評価委員会を設け、外部評価を受けた上で次のPDCAという形に乗せていくことも検討する。最少の経費で最大の効

果を目指す取組をする。

問 国は、小中学校への補助は検討するが保育所や幼稚園は対象外である。町はどう考えているか。

答 楠田福祉課長

幼稚園は、全教室にエアコン設置済み。保育所は、黒田、小富士、松前ひまわり保育所の3園は設置済み。二名保育所は解体前の宗意原保育所からエアコンを移設する計画。

白鶴保育所は、利用していない保育室もあるため、必要数を見きわめる。

問 同じく町民を守る予算配分で、災害対策について伺う。新聞報道によると、西日本豪雨で亡くなった方の約7割が61歳以上だったということだ。

災害時、高齢者本人に対し、周囲の人々は

「誰か」「どう行動すればよいのか」という指針をしっかりと決め、周知徹底した結果、大惨事を選ける事ができた大洲市の事例が紹介されていた。当町では、町と各地域の自主防災組織が、どのように連携すれば「高齢者を救出する予防策」を万全に講じることができるのか。町の考えを伺う。

答 大川健康課長

高齢者は、地域の誰が、どのように支援を行うかを、事前に定める個別計画の作成を自主防災組織に対して依頼している。

現在、各自主防災組織は、避難行動要支援者への訪問調査を行うなど、個別計画の作成に向けた準備を行っている。町としては、支援方法の助言や支援者となる方への説明を自主防災組織にかわって行うなどの支援を行っているっており、今後も個別

計画作成に向けての働きかけを強めていく。

問 昨年12月議会時点の答弁では避難行動要支援者の個別計画策定済は1件のみとのことだったが、その後の進捗状況は。

答 現在も完成しているのは1件のみだ。

ただし、各地域で対象者への訪問調査を自主防災組織で行っており、その中で、聞き取りや必要な支援内容を今精査中だ。

間もなく上がってくると思うが、でき次第、計画として組み込むよう準備している。

問 6月議会で上程された施策に「住民票等のコンビニ交付システム」がある。町民の利便性を考えた施策だが、それよりも増して予算配分で優先すべきは小中学校のエアコン設置の方だと思つた。

「小中学校のエアコン設置」には2つの意味がある。

①町の次世代を担う子ども達の健康と学力増進を守る。

②小中学校は災害時の避難場所。非常時の全町民の住環境を守る。ということだ。

自由に使える予算が8億円と町長は公言されている。限られた予算の中、町民を守る予算を優先させるべきと思つたが、町長の考えは。また、設置の考えと費用の概算は。

